

# 中標津町郷土館だより 第23号

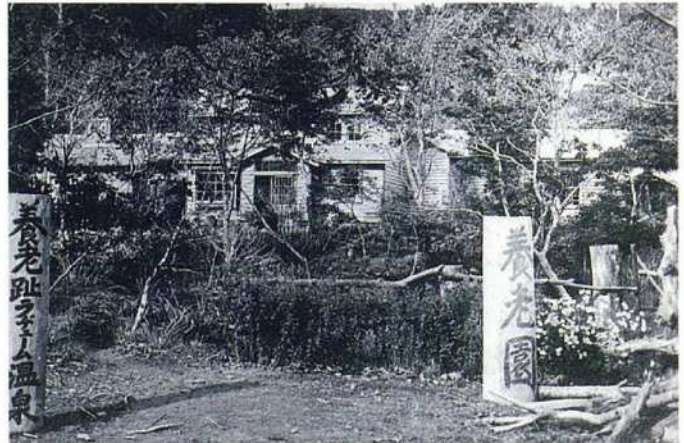
## 平成23年度 中標津町郷土館特別展 「中標津移住100年 100枚の写真展」から 厳選の30枚!

発行:平成23年11月30日  
発行所:中標津町教育委員会  
標津郡中標津町丸山2丁目22番地  
電話:教育委員会 (0153-73-3111)  
郷土館 (0153-72-2190)  
<http://www.nakashibetsu.jp/kyoudokan-web/index.htm>

農業団体による本格的な移住が始まった1911(明治44)年から100年目を迎えた2011(平成23)年。この100年の間のさまざまな出来事を写真で紹介します。



乾定太郎氏を団長とする「徳静団体」の移住により、中標津原野で本格的な開拓がはじまります



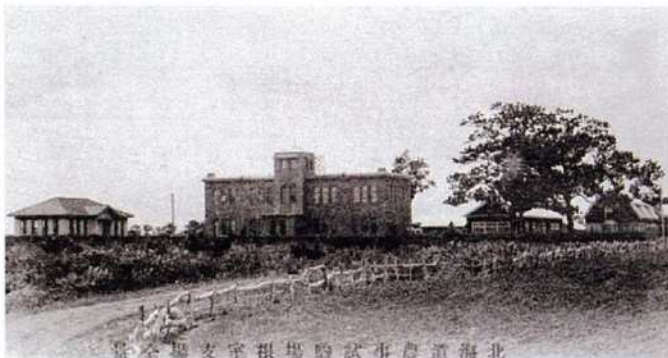
大正5年、西村武重氏により養老牛温泉の開発が本格的にはじめられました



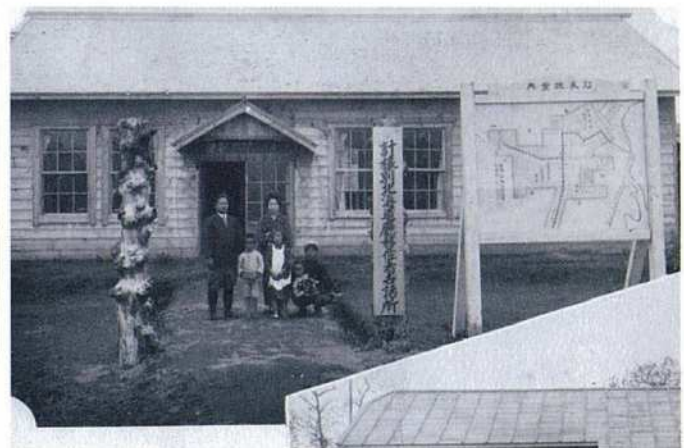
大正12年に撮影された、依橋小学校の前身である中標津原野特別教授場



大正13年、厚床～中標津間に日本で初めての殖民軌道が開通しました

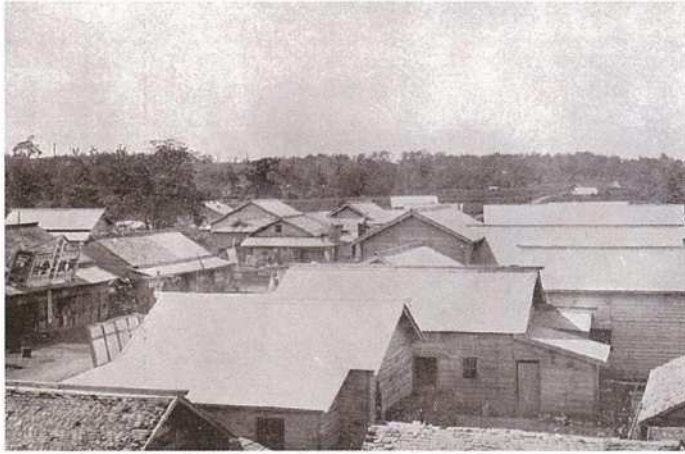


旧北海道農事試験場根室支場の庁舎は昭和2年に建設されたもので、当時根室内陸初の鉄筋コンクリート造2階建  
中標津市街はこの時期を境に大きく発展をはじめます



昭和初期に撮影された計根別北海道庁移住者世話所  
(大正12年設置の中標津移住者世話所は根室と共に管内初)





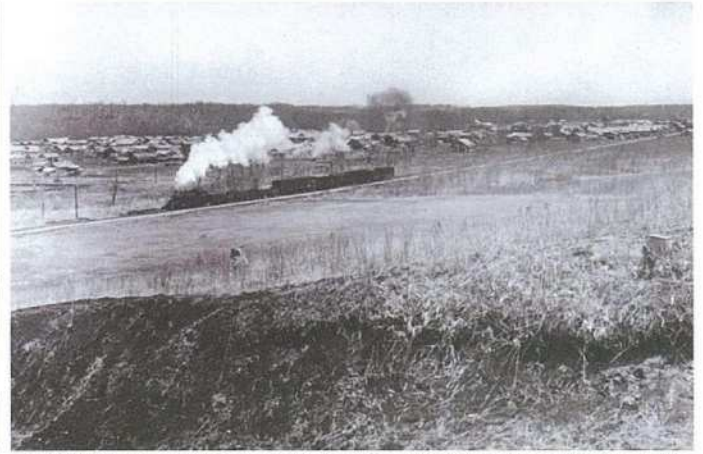
昭和3年頃に撮影された中標津市街



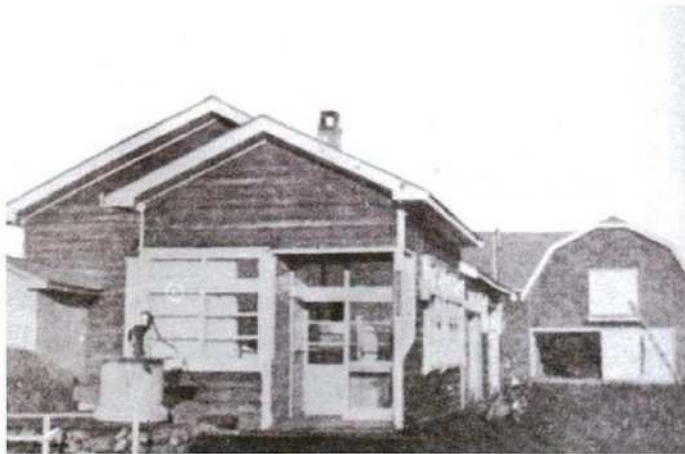
昭和5年、重油発電により中標津市街に電気が通じるようになりました  
(根室原野で初めての電化)



大正14年、本町初となる集乳所が中央武佐にできました  
(開設者の後藤卓三氏)



旧国鉄標津線は、昭和9年10月1日に厚床～中標津間の開通にはじまり、昭和  
12年10月30日に計根別～根室標津駅間の開通により全線開通となりました



昭和19年6月1日、日本初の牛の人工受精施設である中標津畜牛人工  
受精所が開設されました



昭和21年7月1日、標津村から分村し、中標津は「村」となりました  
(写真は初代役場、町制施行は昭和25年1月1日から)



昭和24年9月15日、釧路・根室管内初の有線放送(NRK)が開局しました  
(同29年に町へ移管、同37年3月に廃止)



昭和26年11月、中標津市街の上水道が開通しました





昭和27年10月1日、中標津農協による俣落川の水力発電により、農村の電化が進みました



昭和28年8月、阿寒バスが中標津・俣落・開陽・武佐・上武佐間で運行をはじめました



昭和34年5月、北日本航空が中標津～札幌間に不定期便を開設  
ダグラスDC-3型機が昭和37年まで運行されました

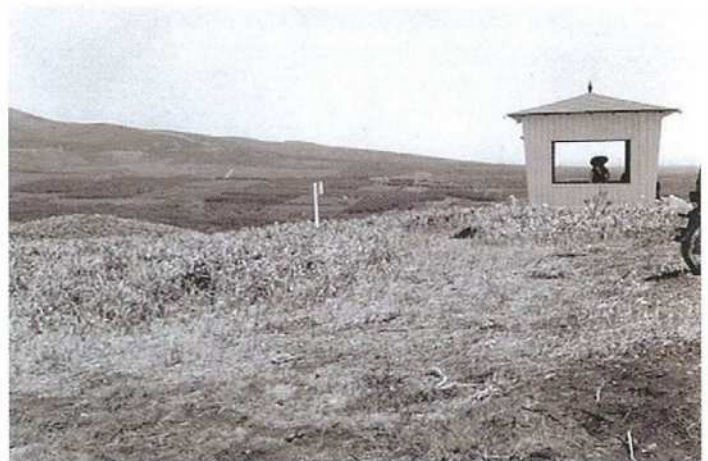


昭和34年7月、中標津市街は駅前広場から舗装化が進められました



橋はかつて丸山公園にかかっていた東1条橋

昭和35年3月13日、融雪時の大雨により中標津市街が水浸しになりました(3名死亡)



昭和37年8月31日、開陽台の初代展望台が完成しました



昭和38年、中央通と大通の交差点に初めての交通信号が設置されました



昭和40年、国営開拓パイロットファーム事業の建設が始まりました





町木：シラカバは、昭和44年3月2日に制定  
町花：エゾリンドウは、昭和52年3月24日に制定



昭和55年10月20日、3代目となる現在の町役場庁舎が完成しました



JR標津線は、平成元年4月29日をもって56年間の歴史に幕を降ろしました



平成元年7月28日、国内初の木造空港ターミナルビルが供用開始



平成2年8月、中標津高等学校野球部が甲子園に初出場



平成5年1月15日発生 釧路沖地震(震度5)  
平成6年10月4日発生 東方沖地震(震度6)



平成9年12月22日、町指定文化財に「蛙意匠の土器」が指定されました



平成13年10月、「根釧台地の格子状防風林」が北海道遺産に選定されました